

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年9月16日 NO.38 (138)

オー君 「花ちゃん！花ちゃん！」

花ちゃん 「どうしたの？そんなに
あわてて？」

オー君 「花ちゃん、花ちゃん、
ぼく、大発見だいはいけんしたんだ。
すごいんだ。」

花ちゃん 「え！大発見？すごい。
さすがオー君ね。ところで、
何を発見なにしたの。」

オー君 「おちついて聞いてね。」

花ちゃん 「さっきからおちついて
いるわよ。おちついて
いないのは、オー君よ。」

オー君 「あ！そうか、あのね、
あのね、大発見というのは、
この花なんだ。」

花ちゃん 「これは、ハナトラノオね。」

オー君 「そういう名前なまえだったのか。」

花ちゃん 「まちがいないおもと思うけど…。
そうですね。モンタ博士！」

モンタ博士 「その通りとおだね。ハナトラノオだ。学校の北門きたもんに入ってすぐのところにたくさん咲いているね。これからどんどん咲くと思うよ。それがどうしたのかな。」

オー君 「それが大発見みなんだ。ぼくがこの花を見つけて、あ！きれいな花だなあと
思おもってね、くわしく観察かんさつしたらね、な、な、なんと！茎くきのところまるが丸まるくなく
て、真四角ましかくだったんだ。」



ハナトラノオ（シソ科）
Physostegia virginiana

花ちゃん 「え！真四角って、^{かたち}口の形なの。^{せいほうけい}正方形の形なの。」

オー君 「そうだよ。^{はじ}始めは^き気がつかなかったけど、きれいな花だから、ちょっとさわってみたんだ。そして、口の形に気がついたんだ。どうだ。すごい^{はっけん}発見、^{だい}大発見だと思うけど・・・。」

モンタ博士 「すごい！大発見だ！すばらしい！^{さいこう}最高！ブラボー！だね。」

花ちゃん 「^{ほんとう}本当にすごいね。オー君。さすがね。わたし^{かんしん}感心しちゃうわ。」

モンタ博士 「オー君。大発見おめでとう。すごいね。よかったね。このハナトラノオというのは、オー君が発見したように、^{くき}茎が口で角ばっているから、^{かく}角トラノオともよばれているんだ。」

花ちゃん 「わたしにもさわらせて！あ！本当だ。四角いね。」

モンタ博士 「オー君のすばらしいところは、あ！きれいな花だと、見るだけで終わりにしないで、自分でさわってみたことだね。」

花ちゃん 「モンタ博士がいつも^い言っている、^{ごかん}五感を^{つか}使って^{かんさつ}観察するということですね。」

モンタ博士 「^{とお}その通りだ。五感を^{つか}使って^{かんさつ}観察することは、^{みかた}いろいろな^{かんが}見方・^{かた}考え方ができるというものさ。」

花ちゃん 「^{ごかん}五感を^{つか}使って^{かんさつ}観察することは、^{たいせつ}とても大切ですね。」

モンタ博士 「それから、モンタ博士がうれしいのは、オー君が、きれいな花に気がついてくれたことだね。さらに、口の^{くき}茎を^み見て、おもしろいなーとか、^{ふしぎ}不思議だなとか、おどろく心をもっていることがすばらしいことだね。」

オー君 「そうなんだ。ぼくは、^{しょくぶつ}植物の^{くき}茎は^{まる}みんな丸いものだと思っていたんだ。

でも、このハナトラノオをさわったら丸くないので、びっくりしたんだ。」

モンタ博士 「これからも、みんなでわくわくドキドキするようなこと、いっぱい^み見つけようね。あ！それから、植物の茎には、^{さんかく}△三角もあるんだよ。」

花ちゃん・オー君 「え！△？三角？三角の^{くき}茎？」

ハナトラノオのつぶやき

わたしは、ハナトラノオ。漢字で書くと『花虎の尾』。花の咲く様子が虎の尾っぽみたいだからこの名前になったの。フィソステギアという学名でそのまま呼ぶ場合もありまーす。もともとは、北アメリカ原産（バージニア）で大正時代に入ってきたといわれているのよ。花が開く前のつぶつぶがとてもかわいらしいとか、残暑の中に私が咲き出すと、何となく涼しげであるとか、花の色がピンクで素敵とか、いろいろと評判になってしまって、ちょっと恥ずかしいくらいです。性質が強く、地下茎を伸ばして広がり、ほとんどほっぽらかしにしておいても大丈夫よ。とても育てやすいの。どう、あなたのおうちでも庭先に植えてみたらいいわよ。よろしくね。